

赤れんが通信



2020年8月31日(月)から9月2日(水)まで、北海道庁国際課の金昭賢(キム・ソヒョン)国際交流員が「赤れんが通信」の取材のために宗谷地域を訪問しましたので、その活動について国際交流員のレポートをご紹介します。

北海道は今、秋と冬の境目にあります。紅葉と落ち葉も新しい季節を迎える準備をしているようです。今まではずっとマスクをつけていたので、季節の変化をあまり実感することができませんでした。ちょっとだけマスクを外してみたら、顔にあたる風が冷たくなったことも、肌寒い空気では濡れた木の葉の香りのような秋の匂いがするというのも、ようやく感じることができました。長い時間失っていた感覚を取り戻したような気がします。

宗谷総合振興局 訪問

国際交流員の稚内—礼文島—利尻島 訪問記

9月初旬、私たち交流員は稚内と礼文、利尻に行ってきました。



稚内は札幌から330kmほど離れた地域です。ソウルから釜山と同じぐらいの距離ですが、航空便を利用して、わずか1時間で到着しました。飛行機から降りると、既に秋になっているような急な気温変化に寒さを感じました。

=風の都市、稚内=



海岸の景色と風の音に沿って着いた場所は「最北端の線路」が置かれているJR稚内駅でした。この駅には稚内を含め、近隣地域の特産品を販売するコーナーもあります。ホタテや昆布などの魚介類の加工品がたくさんありました。



ランチを食べた後、向かった場所は「白い道」です。真っ白なホタテの貝殻で覆われた坂道を上る途中に後ろを振り向くと、キラキラ光る海が遠くに見えます。車の中から見ると、とてもロマンチックな風景ですが、車から降りた瞬間、激しく吹き付ける風で飛ばされるかと思いました。

移動中に窓越しに見た大自然は、恐ろしいほど雄大だったので、人間は極めてちっぽけな存在にすぎないと感じました。広々とした丘陵に牛を放牧している風景が広がり、道路では道に迷っている鹿がサプライズ登場することもありました。



その後、北緯45度に位置した宗谷岬に着きました。北海道の最北端としてよく知られている場所でもあります。

ここでは「平和と協調」を象徴する碑石を見ることもできます。晴れた日には、海の向こうのサハリンまで見えると言われます。

次の目的地は「道の駅さるふつ公園」でした。このような施設では、地域の特産物を一目で把握することができます。この地域では、こけもも煎餅、ホタテ、イクラ、ソーセージなど有名だと思われる。



一方、道の駅の外ではのんびりしている牛の群れに出会いました。宗谷丘陵では牧草地で牛を飼う放牧が盛んになっています。激しく吹いてくる風に舞う青い草は、波を打っているように見えました。

続いて、「稚内市みどりスポーツパーク」に向かいました。ここはカーリングだけでなく、剣道、アーチェリー、柔道など様々な種目のスポーツを活性化し、スポーツを通じて観光客を誘致するために設立された施設です。道内でカーリングで有名な北見地域以外に、稚内にも国際大会を開催できる施設があるということ、今回の訪問で分かりました。



施設を一周して外に出たら、いつの間にか日が暮れていました。初めて訪問した地域で様々な経験ができた一日でした。

=宝島、礼文=

朝6時半のフェリーに乗るために、早くホテルを出ました。稚内から礼文までは、フェリーで2時間ほどかかります。出発した時は、雨がたくさん降っていて心配でしたが、幸いにも移動中に晴れてきて、礼文に着いた頃には晴天でした。

礼文は南北に長い形の島で、緯度が高いため、高山地域で自生する花が咲き誇る地域です。花の見ごろは6月から8月までだそうです。

私たちは礼文島の最北端地点である「スコトン岬」、続いて「澄海岬」を訪れました。スコトン岬からは礼文島の最北端地点から眺める青い海を、澄海岬からは陸地に囲まれた海を見ることができました。



両方とも陸地が海に向かって伸びている「岬」地形ですが、後者はスカイブルー色の水が溜まっている池に見えました。凸凹に隆起した周りの険しい地形は、地球の「筋」のようでした。



映画「北のカナリアたち」のロケ地でもある、北のカナリアパークにも行ってきました。ここでは、映画撮影に使われた小学校の校舎の内部も見学できます。学校の敷地の芝生には平和な風景が広がり、遠くに利尻島も見えます。

昼には、北海道の名物「ちゃんちゃん焼き」を食べてみました。ちゃんちゃん焼きは、北海道で秋によく食べる焼き魚料理です。以前から名前は知っていましたが、実際に見たのは今回が初めてです。普段は鮭で調理しますが、礼文島では、地元で獲れたホッケのちゃんちゃん焼きを味わいました。



半分に切って炭火で焼き上げた魚を味噌とネギと混ぜて食べると、香ばしい魚の味と味噌の旨味でご飯が進みます。

短くても強烈な印象を残した礼文島での時間を後にし、再びフェリーで利尻島に向かいました。



=青い島、利尻=

礼文島から利尻島までは、約45分程の短い旅程です。利尻島は周囲が55kmくらいで、車で一周するのに1時間もかかりませんが、済州島と同様に火山の活動で生まれたこの島の中心には標高1700m以上の利尻山がそびえています。



ちなみに、この山は北海道の名物、白い恋人の包装に描かれた場所でもあります。標高が高いためか、山頂は普段雲で覆われていますが、時々完全な姿を現します。私たちは最後の日に、雲がかかっていない山を見ることができました。



最初に向かった所は、ラナルド・マクドナルド上陸記念碑です。彼は日本人に初めて英語を教えたアメリカ人の英語教師として知られています。彼の上陸を記念して建てた碑石が、景色の良い海岸にありました。

前には広い海が、後ろには巨大な利尻山があるので、多彩な風景を同時に楽しめます。

次のページに続く ➡



続いて、オタマリ沼へ向かいました。ここは、利尻島で一番記憶に残った場所でもあります。「沼」というと、なんだか寂しげな雰囲気を感じ出す場所であると思っていましたが、オタマリ沼には青空が水に浮かんでいるような感動的な風景がありました。

次に訪ねた施設は利尻町ウニ種苗生産センターでした。ウニという生物について深く学んだのは、おそらく人生で初めてではないかと思えます。「キタムラサキウニ」と「エゾバフンウニ」という2種類の品種があることも、ここで知りました。2つの品種のうち、エゾバフンウニの方が商品価値が高く、味も優れているというので、夏にしか味わえない珍味を求めて北海道を訪問することをお勧めします！



水槽の中で1年間育てたウニは、碁石のように小さかったです。殻に太い棘もなく、可愛く見えます。



今回の出張で訪ねた地域では、美味しい海産物を食べました。「海産物は、どこで食べても同じ！」と思ったら勘違いです！新鮮で、大きいサイズ材料与、テーブルいっばいに並ぶ美味しい料理に北海道の魅力が改めて実感しました。ホタテ、ホッケ、マグロ、アワビ、ウニなどを食べましたが、どれも絶品でした。稚内では、薄切りのタコをしゃぶしゃぶにして食べる「タコしゃぶ」が印象的でした。



最後の日、私たちは利尻高等学校で国際交流をテーマにした授業を行いました。私とアメリカ人の交流員は北海道と友好関係を結んでいる母国の友好地域を紹介した後、学生たちの質問に答えるディスカッションを実施しました。積極的に参加してくれた学生たちのおかげで、和気あいあいとした雰囲気の中で交流授業を終えました。

それから、様々な経験をしました。仙法志御崎公園ではアザラシに餌をあげました。また、神居海岸パークでは、ウニを採って水で洗ってから、その場で剥いて食べるウニ採り体験もやりました。ウニにはまだ塩気が残っていたせいか、口に入れたウニではウミの味がしました。



昆布教室にも参加しました。ここでは、利尻で生産される昆布について説明を聞いた後、昆布の加工体験ができます。用途に合わせてそれぞれのサイズにカットして、袋に詰めた昆布はお土産として持ち帰ることができます。

日常の中で簡単に入手できる食材を自分で採取し、加工してみたら、食べ物が食卓に上るまでに、たくさんの人の苦勞を要するということを感じることができました。朝早く散歩をしたとき、海岸で腰を曲げて昆布を干しているお爺さんの姿も思い浮かびました。

私たちは、礼文島や利尻島で思い出をたくさん作ってきました。離島地域には都市のような華やかさはありませんが、季節ごとに自然から与えられた宝を抱いているところだと感じました。また今度、この地域を訪問することになったら、綺麗な星を見てみたいです。

北海道観光PRキャラクター
「キュンちゃん」

ご当地バージョンのかぶりものを身につけながら、道内の色々な場所を旅しています。



✓ 赤れんが通信
バックナンバー
韓国版はこちら



✓ 北海道観光
振興機構は
こちら



✓ 編集者・発行先 総合政策部 国際局 国際課
北海道札幌市中央区北3条西6丁目
TEL : +81-11-231-4111 FAX : +81-11-232-4303